

## 子どもの認知による子どもに対する 親のリーダーシップ行動測定尺度の作成

西 岡 敦 子\*

### **Making a Measurement Scale of Parents' Leadership Behavior toward Children Based on the Child's Perceptions**

Atsuko Nishioka \*

#### **Abstract**

The purpose of this study was to 1) make a measurement scale of parents' leadership behavior toward children based on the child's perception, 2) using this scale, attempt to investigate the situation of contemporary parents' leadership behavior.

Participants were 963 children in the 5<sup>th</sup> and 6<sup>th</sup> grade.

The findings were as follows: 1) the result of a factor analysis was divided into five factors. These factors were: emotional support, discipline, loose interference, self-discipline, and consistency of attitude.; 2) the new scale consists of 12 items each of maintenance factors and performance factors; and 3) the parents' leadership behavior was different according to the gender of both the parents and the child.

#### **キーワード**

親子、リーダーシップ行動、PM 理論、測定尺度、性差

---

\*にしおか あつこ:大阪国際大学人間科学部准教授〈2010.9.30受理〉

## I 問 題

現代の日本において「家族」についての様々な問題が挙げられて久しい。子どもの問題に限っても、育児休業制度の父親の取得率の低さ（平成21年度、男性1.72%、女性85.6%）に見られるように、その後の育児の状況も推測できるであろう。子どもの教育を母親に任せきりの「父親不在（それによる母子密着）」や、近年増加の一途にある「子ども虐待」も大きな社会問題になっている。「子ども虐待」においては、それを親はしつけである、体罰は必要であると主張し、行動しても、それは暴力であり、その結果、子どもは暴力が解決の手段であると学習してしまうだけである。暴力に関して、平成20年度の文部科学省の「児童生徒の問題行動調査」（2009）を見ても、全国の小・中・高校生による平成20年度の暴力行為の件数は59618件で過去最多である。このことに関して、家庭の教育力の急激な低下を指摘する専門家もいる。また、子ども虐待におけるネグレクトも明らかになりつつあり、家族関係が複雑になる中、いっそう「家族」のあり方が重要であることは言うまでもない。さらに、学校教育においても、小学校におけるベアレンツモンスター問題も、今や大学にまで及んでいる。親としての機能を親が十分に理解していない状況がそこにはある。平成18年に改正された教育基本法にも家庭教育の内容が新設され（第10条）、生活のために必要な習慣を身につけさせる、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図ることが明記されている。

このような問題において社会環境が大きく働いており、様々な要因が複雑に絡み合った結果ではあるが、ここでは家族の養育力の低下として捉え、家族という集団内の親のリーダーシップ行動として考えてみたい。

親の子どもに対するリーダーシップ行動の因子分析的研究として、これまで様々な研究が成されている（例えば、石黒（1954）がまとめたもの、山本（1975）、森下（1978））。その中で三隅（1984）は、それらにおいて種々の概念用語が使用されているが、2つの概念次元に分離することが可能であり、それぞれをP次元、M次元に対応可能であるとしている。その後、子どもに対するリーダーシップ行動に関して、2つの主要因、すなわち、しつけ・訓練に関する項目（第1因子）、愛情・情緒に関する項目（第2因子）が存在することをアンケート調査で明らかにし、リーダーシップPM論に基づき第1因子をP要因、第2因子をM要因とし、それぞれ10項目に整理し、リーダーシップ行動測定尺度を作成している（古川、三隅、篠原（1969）、古川（1972））。

そこで、リーダーシップPM論を説明しておく。リーダーシップは集団的現象であり、その中で集団機能概念として位置づけられるものがP、M、2つの機能である。P機能はPerformanceの頭文字をとったもので、集団の目的達成や課題解決に関する機能であり、M機能はMaintenanceの頭文字をとったもので、集団の維持に関する機能である。そこで、集団における特定の人のリーダーシップ行動が、P機能に関わるものを「P行動」、M機能に関わるものを「M行動」と命名している。これらは、家族という集団内では、P機能が子どもを社会に適用できるようにする「社会化作用」に、M機能は親子関係を維持し、子どもに安らぎを与える「情緒的相互作用」に当たる。PとMは別次元の行動であるが、実際のリーダーシップ行動には、どのような場合でもPとMが含まれている。PとMの各

機能がどの程度果たされているかによって、4つのPM型に分類される。4つのPM類型はFig.1のとおりである。

M次元	M (pM)	PM
	pm	P (Pm)
	P次元	

Fig.1 リーダーシップPM4類型

以上のことより、本研究においてもリーダーシップPM論を用い、子どもに対する親のリーダーシップ行動を測定できる尺度を新しく作成することを目的とする。また、その尺度を用い、現代の親のリーダーシップ行動の状況を一定限分析できればと考える。

## Ⅱ 方 法

### Ⅱ－１．調査対象

予備調査として、大阪府内、広島県内の小学校、学習塾、小児歯科に通う小学校5、6年生より得た36件の結果を踏まえ、アンケート用紙の最終調整を行った。本調査は、大阪府内、広島県内の小学校6校の5、6年生に対して実施した。有効回答数は952件であり、その内、母親についての回答、父親についての回答、計912件を対象サンプルとした。詳細は、Table 1のとおりである。

Table1 本調査の対象

				(件)	
回答数				963	
有効回答数				952	
母親についての回答数	635	父親についての回答数	277	その他についての回答数	40
対象サンプル数				912	

### Ⅱ－２．調査方法

調査方法は質問紙による無記名回答方式で、各小学校の協力体制のもと、集団調査法を用いた。なお、回答者の家族構成を配慮し、対象者を母親、父親以外に祖父母や施設の先生等も回答者自身で選択可能なように工夫した。また、現在の家庭内における親の性別による子に対する接触時間の違い等により、回答が母親のみに集中しかねない状況が予備調査の結果からも考えられたため、事前にできるだけ配慮を依頼した。なお、実施時期は

2001年10月である。

### Ⅱ－３．調査項目

設問項目の作成にあたっては、まず、「親が行っている、行うことが期待されている養育行動」について、各種文献より情報収集をおこなった。その結果、1248件の情報を得た。それらを、整理、統合、分類を繰り返し、網羅性の確認、予備調査を経て、62項目とした（設問項目は Table 2 の設問項目欄を参照）。次に、妥当性の検討の項目として、リーダーシップ PM 論の専門家の助言は、項目数が少なく、今回のリーダーシップ測定尺度作成の項目と類似していること、および、家族において重要な要素であるとされている親密性と信頼性を主に測ることができるものを用いることがよいとのことであった。その結果、森下（1981）の「子どもの親に対する親和性尺度」（親密さ尺度 7 項目、同一視欲求尺度 6 項目、信頼性尺度 4 項目、の計 17 項目）を用いることとした。よって、設問項目は総計 79 項目となった。

リーダーシップ測定尺度作成のための 62 項目は 5 件法、妥当性検討のための親和性尺度の 17 項目は 3 件法で回答を求めた。フェイス項目として、学年、性別、家族構成、回答対象者を問う 4 問を加え、総設問数は 83 問である。

## Ⅲ 結果および考察

### Ⅲ－１．リーダーシップ行動測定尺度の作成（因子分析、信頼性、妥当性）

尺度の作成にあたり、まず、調査で得られた 62 項目の結果をもとに因子分析（主成分分析、バリマックス法）を行った。結果は、Table 2 のとおりである。

第Ⅰ因子は 21 項目で構成されており、因子負荷量の高い項目は、「41 あなたの気持ちを知ってくれていると思いますか」、「51 あなたの味方だと思いますか」、「47 あなたと意見が合わないとき、あなたの言うことも聞いてくれますか」、「48 あなたの話を最後まできちんと聞いてくれますか」などである。これらの項目は、いずれも愛情、受容に関するものであることから「情緒的支持」の因子と命名した。

第Ⅱ因子は 23 項目で構成されており、因子負荷量の高い項目は、「12 あなたに、人のことを思いやるように言いますか」、「4 あなたに、たくさんの人と仲良くするように言いますか」、「50 あなたに、自分の行動に責任を持つように言いますか」、「46 あなたに、約束を守るように言いますか」などである。これらの項目は、日常生活における対人関係、行動様式を身につけることに関するものであることから「しつけ」の因子と命名した。

第Ⅲ因子は 8 項目で構成されており、因子負荷量の高い項目は、「2 あなたに、忘れ物をしないように言いますか」、「25 あなたに、宿題をしたかどうか聞きますか」、「11 あなたに、身の回りのかたづけをするように言いますか」などである。これらの項目は、必ずしも必要ではないが、前もって子どもへ注意することに関するものであることから「ゆるい干渉」の因子と命名した。

第Ⅳ因子は 6 項目で構成されており、因子負荷量の高い項目は、「26 あなたに、計画を立てて、勉強するように言いますか」、「27 あなたに、本を読むように言いますか」、「42

子どもの認知による子どもに対する親のリーダーシップ行動測定尺度の作成

Table2 子どもの認知による子どもに対する親のリーダーシップ行動の因子分析

設問項目	I	II	III	IV	V
41 あなたの気持ちをわかっていてくれると思いますか	.75	.20	.06	.07	-.11
51 あなたの味方だとおもいますか	.70	.14	.01	.03	-.06
47 あなたと意見が合わないとき、あなたの言うことも聞いてくれますか	.69	.10	.12	.13	-.12
48 あなたの話を最後まできちんと聞いてくれますか	.69	.17	-.03	.17	-.21
45 あなたがよいことをした時などにほめてくれますか	.68	.23	.18	.04	-.04
36 あなたのがんばっているところをほめてくれますか	.68	.23	.11	.05	-.00
14 あなたの言うことやすることを信じてくれますか	.67	.14	-.09	.12	-.08
31 しかる時、あなたの気持ちを考えていてくれると思いますか	.66	.17	.07	.08	-.07
56 あなたが問題にぶつかった時、どうすればよいのかを一緒に考えてくれますか	.65	.07	.22	.01	-.11
59 あなたが病気の時などにやさしく看病してくれますか	.63	.09	.35	.05	-.05
13 あなたの質問にきちんと答えてくれますか	.62	.22	.02	.16	-.15
49 あなたを甘えさせてくれますか	.57	-.05	-.01	-.00	.29
8 何でも話せる人ですか	.57	.09	.00	.02	.06
5 あなたに「大すき」「心配したよ」などと声をかけてくれますか	.55	.17	.15	.18	.28
40 あなたに注意することは、その人も守っていますか	.51	.13	.10	.11	-.18
52 遊び相手になってくれますか	.49	.16	-.19	.05	.20
34 家の中を明るく楽しくしようとしますか	.49	.33	.05	.09	.14
54 あなたが勉強している時は、静かにしてくれますか	.47	.10	.17	.25	-.21
15 あなたの勉強を見てくれますか	.43	-.00	.30	.18	.04
18 あなたの世話をしてくれますか	.42	.16	.27	-.06	.05
61 あなたに、女の子のからだ、男の子のからだについてわかりやすく教えてくれますか	.42	.09	.09	.14	.41
12 あなたに、人のことを思いやるように言いますか	.28	.62	.16	.02	.17
4 あなたに、たくさんの人と仲良くするように言いますか	.20	.55	.05	.00	.10
50 あなたに、自分の行動に責任を持つように言いますか	.13	.52	-.01	.32	-.05
46 あなたに、約束を守るように言いますか	.25	.52	.23	.11	.01
1 あなたに、生き物を大切にするように言いますか	.15	.50	.12	-.17	.07
16 あなたに、「これはよいこと」「これは悪いこと」とはっきり言いますか	.29	.49	.23	-.02	-.08
37 あなたに、感謝の気持ちを忘れないように言いますか	.35	.47	.15	.18	.16
35 あなたに、自分のことは自分でするように言いますか	.18	.47	.01	.18	-.04
33 あなたに、人に迷惑をかけないように言いますか	.13	.46	.34	.12	-.03
29 あなたに、自分の意見をはっきり言うように言いますか	.22	.45	.07	.28	-.06
22 あなたに、親の言い分けを守るように言いますか	.17	.43	.10	.18	.14
23 あなたに、あいさつをするように言いますか	.17	.43	.20	.28	.11
57 あなたに、何か決めたことを毎日続けるように言いますか	.12	.43	.03	.43	-.14
60 あなたに、立派な人間になるように言いますか	.24	.42	.03	.38	-.01
30 あなたに、思い通りにならないことがあった時、がまんをするように言いますか	.07	.42	.21	.04	.07
24 あなたに、電車の中や友達の家でのマナーを守るように言いますか	.26	.42	.26	.18	.11
9 あなたに、何でも努力するように言いますか	.21	.40	.21	.27	-.02
7 あなたに、いろんな夢をもつように言いますか	.23	.39	-.01	.39	.09
6 あなたに、外で遊ぶように言いますか	.01	.36	.06	.25	-.26
38 あなたが悪いことをした時、きびしくしかりますか	-.07	.35	.23	.21	-.00
3 あなたに、ほしいものは自分でお金をためて買うように言いますか	-.15	.34	.23	.03	-.21
19 あなたに、お手伝いをするように言いますか	.01	.33	.29	.07	.11
21 あなたに、知らない人についていけないように言いますか	.32	.32	.29	.09	.16
2 あなたに、忘れ物をしないように言いますか	.18	.19	.63	.02	.03
25 あなたに、宿題をしたかどうか聞きますか	.06	.07	.55	.31	.00
11 あなたに、身の回りのかたづけをするように言いますか	-.06	.24	.50	.13	-.04
20 あなたが外出するときに、だれとどこで遊ぶかを聞きますか	.31	.11	.49	.14	.21
53 あなたに、お金のむだづかいをしないように言いますか	.09	.32	.46	.06	-.13
17 あなたの言葉づかいを注意しますか	.03	.22	.40	.08	.23
32 あなたに、時間を守るように言いますか	.16	.34	.39	.29	.01
43 あなたの仲のよい友達のことを知っていますか	.27	.20	.28	-.01	-.07
26 あなたに、計画を立てて、勉強するように言いますか	.15	.15	.20	.66	.04
27 あなたに、本を読むように言いますか	.12	.16	.20	.59	.09
42 あなたに、規則正しい生活をするように言いますか	.18	.32	.22	.50	-.01
28 あなたに、何でもすすんでやるように言いますか	.16	.41	.17	.47	.03
58 あなたが悩んでいる時や相談した時、親の意見を押しつけませんか	.08	-.01	.06	.41	.09
55 あなたが問題にぶつかった時、一人でがんばるように言いますか	-.14	.18	-.10	.38	.25
39 あなたが同じことをしていても、怒るときと怒らないときがありますか	-.17	.01	-.01	.01	.46
44 「いいよ」と言いながらもいやそうな顔をしていることがありますか	-.34	.07	.17	.05	.45
62 あなたに、「男の子だから～、女の子だから～」といったしかり方をしますか	-.10	.26	-.04	.14	.37
10 あなたの見るテレビ番組をチェックしますか	.03	-.04	.19	.28	.35

あなたに、規則正しい生活をするように言いますか」などである。これらの項目は、子どもの自主性に関するものであることから「自律性」の因子と命名した。

第Ⅴ因子は4項目で構成されており、因子負荷量の高い項目は、「39 あなたが同じことをしていても、怒るときと怒らないときがありますか」、「44 「いいよ」と言いながらもいやそうな顔をしていることがありますか」などである。これらの項目は、親がいつも同じ態度で子どもに接することに関するものであることから「態度の一貫性」の因子と命名した。

信頼性係数は、 $\alpha = .93$ であり、十分な値が得られた。

次に、これらの結果を基に、リーダーシップを測定するための項目の選定を行う。選定の基準は、因子負荷量が高いこと、類似していると考えられる項目は除く、それぞれの因子を代表すると考えられる項目とする、および、P行動、M行動の項目を同数とすることである。その結果、P行動は、第Ⅱ因子から6項目、第Ⅲ因子から2項目、第Ⅳ因子から2項目、第Ⅴ因子から2項目、計12項目とした。同じくM行動は、第Ⅰ因子から12項目とした。総計24項目を「子どもの認知による子どもに対する親のリーダーシップ行動測定尺度」とする。項目の詳細は、Table 3のとおりである。

Table3 子どもの認知による子どもに対する親のリーダーシップ行動測定尺度

行動	因子名	項目	
P (12)	Ⅱ しつけ	あなたの親は、あなたに、人のことを思いやるように言いますか	P-1
		あなたの親は、あなたに、自分の行動に責任を持つように言いますか	P-2
		あなたの親は、あなたに、約束を守るように言いますか	P-3
		あなたの親は、あなたに、生き物を大切にするように言いますか	P-4
		あなたの親は、あなたに、「これはよいこと」「これは悪いこと」とはっきり言いますか	P-5
		あなたの親は、あなたに、人に迷惑をかけないように言いますか	P-6
	Ⅲ ゆるい干渉	あなたの親は、あなたに、忘れ物をしないように言いますか	P-7
		あなたの親は、あなたに、身の回りのかたづけをするように言いますか	P-8
	Ⅳ 自律性	あなたの親は、あなたに、計画を立てて、勉強するように言いますか	P-9
	Ⅴ 態度の一貫性	あなたの親は、あなたに、規則正しい生活をするように言いますか	P-10
		あなたの親は、あなたが同じことをしていても、怒るときと怒らないときがありますか	P-11
		あなたの親は、「いいよ」と言いながらも、いやそうな顔をしていることがありますか	P-12
M (12)	Ⅰ 情緒的支持	あなたの親は、あなたの気持ちをわかってくれていると思いますか	M-1
		あなたの親は、あなたの味方だと思いますか	M-2
		あなたの親は、あなたの話を最後まできちんと聞いてくれますか	M-3
		あなたの親は、あなたのがんばっているところをほめてくれますか	M-4
		あなたの親は、あなたの言うことやすることを信じてくれますか	M-5
		あなたの親は、しかなる時、あなたの気持ちを考えてくれると思いますか	M-6
		あなたの親は、あなたが問題にぶつかった時、どうすればよいのかと一緒に考えてくれますか	M-7
		あなたの親は、あなたが病気の時などにやさしく看病してくれますか	M-8
		あなたの屋は、あなたを甘えさせてくれますか	M-9
		あなたの親は、何でも話せる人ですか	M-10
		あなたの親は、あなたに、「大すき」「心配したよ」などと声をかけてくれますか	M-11
		あなたの親は、あなたに注意することは、親自身も守っていますか	M-12

さらに、この尺度の妥当性を検討する。対象サンプル数の912件より、欠損値を1つでも含むものを除いた790件を用いて、親のPM類型を行った。まず、測定尺度のP行動に



関わる12項目の合計得点の平均値は、 $\bar{X}=44.07$ であり、同じくM行動は、 $\bar{X}=45.81$ であった。次に、PM理論に乗っ取って、P行動、M行動ともに平均値以上と評価された場合をPM型、M行動は平均値以上だが、P行動が平均値未満の場合はM型、P行動は平均値以上だが、M行動が平均値未満の場合はP型、P行動M行動ともに平均値未満の場合はpm型と分類した。その結果、PM型は305件、M型は140件、P型は147件、pm型は198件であった。妥当性の検討のために外的基準としての親和性尺度の得点との有意差検定を行った。結果、それぞれの間に有意差が認められた。また、PM類型ごとの親和性得点を見てみると、PM型が最も高く、次にM型、P型と続き、pm型が最も低かった。これらの結果は、従来の結果と一致することから、今回作成した測定尺度は、妥当なものであることが確かめられたと言える。結果の詳細はTable 4のとおりである。また、尺度として採用された24項

Table 4 親のPM 類型と親和性尺度

類型	サンプル(件)	親和性尺度(平均値)	(N=790)	
PM	305	43.30		
M	140	41.54		
P	147	33.64		
pm	198	32.56		

\*\*\*:p<0.001 \*\*:p<0.01

目全体の信頼性係数は、 $\alpha = .86$ であり、下位次元のP行動12項目では、 $\alpha = .68$ 、同じくM行動12項目では、 $\alpha = .89$ であり、十分な値が得られている。

今回の尺度には、過去文献に見られた「厳格性」や「支配－服従」の因子が見られなかったことや、逆に新たに「態度の一貫性」の因子が出現した。また、第I因子としてP機能ではなくM機能が挙がったことも従来とは異なった点である。これらのことから、現在の親は、子どもに嫌われないように気を使い、いつも同じ態度で厳しく接するということをしていない面があると考えられる。また、現代の親子関係が友人・仲間のような関係に近いことがよいとされる社会風潮の影響もあるように思われる。また、子どもの規範意識育成に対する保護者らの認識を調べる調査（全国公立幼稚園長会、2009年実施）では、「子どもに年齢相応の規範意識が身についているか」との質問に「とてもそう思う」、「まあそう思う」とした保護者は合わせて79%だったが、教員側は、55%であったとある。ここにも親の「社会化作用」であるP機能の低下が見られる。

### Ⅲ－２．親の性差、子どもの性差によるリーダーシップ行動の差異

親の性差、子どもの性差によって、子どもに対する親のリーダーシップ行動が異なるのかどうかを、今回、「子どもの認知による子どもに対する親のリーダーシップ行動測定

尺度」として採用した24項目を対象に検討した。また、これら24項目に欠損値の無い907件が対象である。女子が認知している母親、男子が認知している母親、女子が認知している父親、男子が認知している父親に、それぞれ分類し、それらのリーダーシップ行動に差異があるのかどうかの有意差検定の結果は、Table 5 のとおりである（Table 5 中の「項

Table5 母親・父親・女子・男子別 リーダーシップ行動の差

項目	A 母親-女子 (N=367)		B 母親-男子 (N=265)		C 父親-女子 (N=86)		D 父親-男子 (N=189)		A-B	C-D	A-C	B-D
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD				
P-1	4.07	1.12	3.85	1.17	3.78	1.15	3.68	1.24	*		*	
P-2	4.01	1.13	4.08	1.17	4.05	1.15	3.89	1.26				
P-3	4.38	0.95	4.41	0.95	4.29	0.95	4.21	1.15				
P-4	4.05	1.06	3.98	1.18	4.06	1.21	3.88	1.25				
P-5	4.28	1.05	4.23	1.15	3.99	1.20	4.15	1.17			*	
P-6	4.54	0.84	5.57	0.84	4.16	1.16	4.32	1.08			**	*
P-7	4.40	0.97	4.40	1.03	3.68	1.38	3.80	1.40			***	***
P-8	4.43	0.97	4.59	0.83	4.08	1.35	4.11	1.28	***		*	***
P-9	2.90	1.49	2.84	1.57	2.62	1.53	2.94	1.51		*	*	
P-10	3.89	1.28	4.11	1.20	3.64	1.34	3.80	1.32				**
P-11	2.94	1.50	2.87	1.60	3.08	1.49	2.94	1.55				
P-12	2.83	1.58	2.94	1.63	2.74	1.54	2.55	1.56				***
M-1	4.01	1.22	3.98	1.20	3.62	1.35	3.74	1.34				*
M-2	3.86	1.21	3.85	1.31	3.67	1.38	3.71	1.37			**	
M-3	3.93	1.32	3.91	1.30	3.45	1.45	3.71	1.32				
M-4	4.34	1.06	4.27	1.10	4.19	1.16	4.11	1.27				
M-5	4.02	1.08	3.86	1.11	3.83	1.14	3.79	1.16			**	
M-6	3.69	1.33	3.70	1.35	3.30	1.55	3.48	1.45				
M-7	3.91	1.27	3.95	1.29	4.05	1.21	3.81	1.31				
M-8	4.16	1.16	4.10	1.33	4.19	1.18	4.12	1.26				
M-9	3.04	1.36	2.41	1.29	2.79	1.46	2.43	1.26	***	*		
M-10	3.78	1.18	3.58	1.26	3.04	1.55	3.41	1.35	*	*		
M-11	3.43	1.33	2.95	1.41	2.66	1.44	2.58	1.44	***		***	**
M-12	3.61	1.32	3.63	1.37	3.44	1.39	3.41	1.40				

\*\*\*:p<0.001 \*\*:p<0.01 \*:p<0.05

目」は、紙面の都合により Table 3 右端の記号と一致させている。よって、各項目の内容は Table 3 の記号と一致する項目を参照のこと。また、その結果をわかりやすくまとめたものが Table 6 と Table 7 である（Table 6、Table 7 ともに、設問項目を一部省略

Table6 親の性差、子どもの性差によるリーダーシップ行動の差 (1)

		女子 N=367		男子 N=265	
A-B	母親 N=632	P-1	人のことを思いやるように言う	P-8	身の回りのかたづけをするように言う
		M-9	甘えさせてくれる		
		M-10	何でも話せる		
		M-11	「大すき」「心配したよ」と声をかける		
		女子 N=86		男子 N=189	
C-D	父親 N=275	M-9	甘えさせてくれる	P-9	計画を立てて勉強するように言う
				M-10	何でも話せる



子どもの認知による子どもに対する親のリーダーシップ行動測定尺度の作成

Table7 親の性差、子どもの性差によるリーダーシップ行動の差 (2)

		母親	N=367	父親	N=86
A-C	女子 N=453	P-1	人のことを思いやるように言う		
		P-5	「よいこと」「悪いこと」をはっきり言う		
		P-6	人に迷惑をかけないように言う		
		P-7	忘れ物をしないように言う		
		P-8	身の回りのかたづけをするように言う		
		P-9	計画を立てて勉強するように言う		
		M-2	味方だと思う		
		M-5	言うことやすることを信じてくれる		
		M-11	「大すき」「心配したよ」と声をかける		
		母親	N=265	父親	N=189
B-D	男子 N=454	P-6	人に迷惑をかけないように言う		
		P-7	忘れ物をしないように言う		
		P-8	身の回りのかたづけをするように言う		
		P-10	規則正しい生活をするように言う		
		P-12	「いいよ」と言いながら、いやそうな顔をする		
		M-1	気持ちをわかってくれる		
		M-11	「大すき」「心配したよ」と声をかける		

して表記している。)

まず、母親の行動は子どもの性別によって差があるのか、同様に、父親の行動は子どもの性別によって差があるのかを見る (Table 6)。母親は、男子よりも女子に「人のことを思いやる」ように言っており、父親は女子よりも男子に「勉強する」ように言っている。また、両親ともに、男子より女子に「甘えさせている」ことから、子どもの性によって親の行動が違う、すなわち、ジェンダー意識が働いていることが窺える。また、「何でも話せる」関係は、母親と女子、父親と男子であり、同性間になっていることもわかる。

次に、女子に対して母親・父親の行動に差があるのか、同様に、男子に対して母親・父親の行動に差があるのかを見る (Table 7)。女子に対しても男子に対しても、圧倒的に、父親よりも母親の方が、リーダーシップ行動を発揮していることがわかる。このことから子どもと母親の結びつきが父親よりも強いと言えそうである。一般的に、子どもが母親と過ごす時間が長いという結果とも考えられる。「子育ては母親がするもの」という意識が働いた結果であれば、その意識変革が必要であると思われる。

#### IV 結 論

子どもの認知による子どもに対する親のリーダーシップ行動に関する調査を行い、因子分析の結果、5つの因子が抽出された。P行動に関わる因子として「しつけ」、「ゆるい干渉」、「自律性」、「態度の一貫性」の4因子、M行動に関する因子として「情緒的支持」の1因子からなる5因子構造として把握することができた。今回は、この5因子をもとに、P行動12問、M行動12問、合計24問からなる「子どもの認知による子どもに対する親のリーダーシップ行動測定尺度」を作成することができた。

そして、親・子どもの性差によるリーダーシップ行動の違いなども一定限把握できた。一方、片親家庭については、片親家庭の父親のサンプル数が少なかったことから、今回はここに挙げられていない。家族関係が複雑化している中、このような結果の分析も急がれ

るであろう。

今後は、この尺度を使用し、親子間の関係改善や子どもの教育、ひいては親の教育に寄与できればと考える。

## 謝 辞

本調査の実施に際し、ご協力くださった小学校関係者、児童の皆さんに深く感謝する。また、ご助言を賜った本学教授の石井 茂先生、データ収集および入力にご協力くださった本学学生の狩山浩子さん、窪木真知子さんに感謝する。

なお、本研究の一部は、第24回日本家政学会関西支部研究発表会にて発表したものである。

## 参考文献

- 1) 古川綾子「親の自己認知と子どもの認知による子どもに対する両親のリーダーシップ行動測定について」、『実験社会心理学研究』、第12巻、pp.41-52、1972年。
- 2) 古川綾子「両親のリーダーシップ行動認知に関する発達心理学的研究」、『教育心理学研究』、第22巻、pp.69-79、1974年。
- 3) 古川綾子、三隅二不二他『親のPM式リーダーシップ測定(1)』、『日本心理学会33回大会発表論文集』、pp.293、1969年。
- 4) 石黒大義「親の態度と子どもの性格」、『児童心理』、第8巻下、pp.60-67、1954年。
- 5) 町沢静夫『「壊れもの」としての家族』、大和書房、1998年。
- 6) 三隅二不二、篠原弘章、杉万俊夫「地方官公庁における行政管理・監督者のリーダーシップ行動測定法とその妥当性」、『実験社会心理学研究』、第16巻、pp.77-97、1976年。
- 7) 三隅二不二、吉崎静夫、篠原しのぶ「教師のリーダーシップ行動測定尺度の作成とその妥当性の研究」、『教育心理学研究』、第25巻、pp.13-21、1977年。
- 8) 三隅二不二『リーダーシップ行動の科学』、有斐閣、1984年。
- 9) 森下正康「親の養育態度と子どものパーソナリティの発達に関する因子分析的研究」、『和歌山大学教育学部紀要』、第27巻、pp.53-72、1978年。
- 10) 森下正康「児童の親に対する親和性の因子構造と尺度の作成」、『和歌山心理研究会(藤田紹憲先生退官記念誌)』、pp.57-72、1981年。
- 11) 芹沢俊夫『現代<子ども>暴力論<増補版>』、春秋社、1997年。
- 12) 山本吉広「斜交軸回転による因子構造の交叉妥当化-親子関係診断テストについての一結果-」、『関西大学社会学部紀要』、第6巻(2)、pp.53-66、1975年。
- 13) 「いじめ減少も「暴力行為」最多 家庭の教育力低下か」、産経新聞、2009年12月1日。
- 14) 「親が子供に求めるもの 幼稚園調査」、産経新聞(夕刊)、2010年4月8日。
- 15) 「平成21年度雇用均等基本調査」結果概要」平成22年7月16日 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課、『厚生労働省ホームページ 報道発表資料 2010年7月』、<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000civ3.html> (2010年9月28日閲覧)
- 16) 「教育基本法(平成18年法律第120号)」、『文部科学省ホームページ 教育基本法資料室』、[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/kihon/houan.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/houan.htm) (2010年9月28日閲覧)